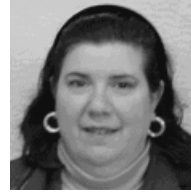




日本の家

劇を通じてあいさつを学ぶ



パム・シュピーゲル
Pam Spiegel
マルバーン・セントラル・スクール
(オーストラリア、ビクトリア州)

授業のねらい

日本の住居や、日本人の暮らし方、習慣などを学ぶと同時に、日本の家庭で使われているものについて日本語で話す。また、劇を通じてあいさつを復習する。劇はクラス全員の前で発表する。

学習項目

言語面

機能	表現	語彙
<ul style="list-style-type: none"> ❖ あいさつをする ❖ あるものが何であるかを質問する / 答える 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ わたしは～です ❖ これはなんですか、これは～です 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ げんかん、たたみ、このま、おふろ、こたつ、ふとん、ざぶとん、へや、こんにちは、おやすみなさい、どうぞはってください

文化面

- 日本の家に入る際の習慣を理解する
- 風呂に入る際の習慣を理解する
- 日本とオーストラリアの住居についてどんな類似点があるかを認識する

レッスンプラン

用意するもの

フラッシュカード

「ケンとケイコの日本体験」台本(資料*)

授業の進め方

1. 語彙の復習(5分)

フラッシュカードを使って語彙と文型の復習をする。

例

げんかん、たたみ、とこのま、お風呂、こたつ、ふとん、ざぶとん、へや、こんにちは、おやすみなさい、どうぞはいってください、わたしは～です、これはなんですか、これは～です

2. 「ケンとケイコの日本体験」を朗読(5分)

児童を2人指名してケンとケイコのせりふをそれぞれ読ませ、ほかの児童にどのような劇であるかを知らせる。

3. 劇の練習(20分)

児童たちを6人のグループ(クラスサイズによって7人のグループがあってもいい)に分け、各グループごとに、ナレーション役、ケンの役、ケイコの役を演じる児童を選ばせる。また、残りの児童のために役をいくつか考えさせ、同時にせりふも作らせる。グループによっては、劇を少し変更してオリジナルなものに仕上げてもいい。

4. 劇の発表(15分)

各グループは自分たちの劇をクラスの前で発表する。時間の制約があるので、発表を次回の授業に繰り越すグループもあるかもしれない。児童によっては時間内にせりふを暗記できないこともあるので、そういう場合には、自分で書いたメモを見ながらせりふを言ってもいいことにした。

5. グループ発表へのフィードバック(5分)

児童たちに、グループで演じた劇について意見を述べさせる。建設的な意見になるように、もとの台本に加えた部分は日本文化の別の面を理解する上で役に立ったか、その箇所を変更してさらによくすることはできないか、劇から何を学んだかなど、いくつかポイントを挙げて、参考にさせる。また、日本の文化について学んだことも発表させる。その際に、児童を1人指名して、ほかの児童たちの発表を黒板に書かせ、全員が見られるようにする。

6. 評価

- ✦ 児童たちがグループで劇を発表している時に、教師は児童たちの日本語の発音をチェックする。その際、児童たちが日本語を機械的に発音するだけでなく内容をよく把握しながら話しているかどうかを注意して観察する。児童たちがグループ発表に対して積極的に意見を述べているかどうかを評価する。
- ✦ 日本の文化について学んだことの内容を評価する。

選考委員会から

学習したことのおさらいとして、この年齢の児童の創造性とエネルギーを発揮できる場面を盛り込んでいる点が評価できます。

日本語のせりふですが、ケンとケイコの空港での対面のあいさつは「こんばんは」より「ようこそ」と「ありがとう」にしてはどうでしょうか。また、児童の学習レベルにあわせて「ちょっと、まって(ください)」「あ、すみません」「ああ、そうですか」「はい」「いいですね」「すごいですね」「きれいですね」「すみません、わかりません」「おしえてください」などの表現も補足するといいいでしょう。

ケンとケイコの日本体験

ケンは座って手紙を読んでいる。
 ケンは日本に行くためにスーツケースに旅行用品をつめる。
 ケンはスーツケースを持って舞台から去る。



ケンが再び飛行機のチケットを持って入場する。
 ケイコが空港のラウンジでケンを待っている。(ほかの児童たちもその周りにいる。)
 ケイコはケンを見つけ手を振る。

ケイコ：わたしはけいこです。
 ケン：ぼくはけんです。こんにちは。
 ケイコ：こんばんは。
 ケン：すみません、こんばんは。

ナレーター：ケイコとケンは空港で会い、自己紹介します。そして、ケイコは家まで車で行くと言い、2人は車に向かいます。



家に到着する。

ケイコ：どうぞ、はいってください。
 ケン：ありがとう。

ケンはくつをはいたままで上がるので、ケイコが止める。

ナレーター：ケイコは、日本では家の中ではくつをはかないことを説明します。ケイコは、ケンを居間に連れていきすわってくださいと言います。

ケイコ：どうぞ、すわってください。

ケンは部屋の^{へや}中のテーブルをゆびさす。

ケン：これはなんですか。
 ケイコ：それはこたつとぎぶとんです。

ナレーター：ケイコはこたつについて説明します。こたつは日本で冬に使われるものです。テーブルの下にヒーターがついていて、ふとんのようなものをかけて使います。



ケン^{ちい}は部屋の小さな舞台をゆびさす。

ケン：これはなんですか。

ケイコ：それはとこのまです。

ナレーター：ケイコは、^{とこ}床の間は特別な場所^まで、^{とくべつ}ふつう^{ぼしよ}書画の掛け軸、^{しよが}生け^い花、^{こつとうひん}骨董品などが置かれていることを説明します。ケイコはケンに、^{なが}長い^{りよこつ}旅行のあとで^{つか}疲れて^いいる^{はい}だろうから、^ね寝る^{まえ}前に^{ふろ}風呂^ろに入るようすすめます。



ケイコ：お風呂にはいってください。

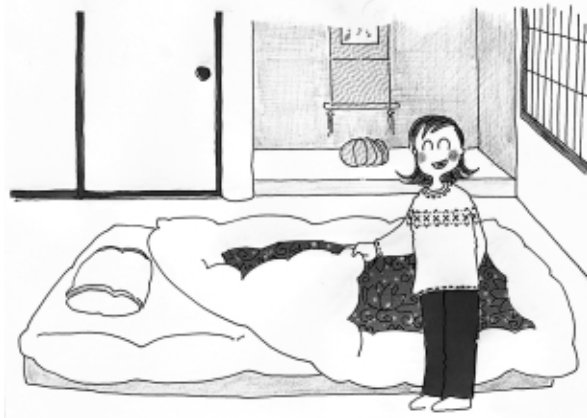
ケン：ありがとう。

ナレーター：ケイコは、ケンに日本の風呂について、^{からだ}体を^{よくそう}浴槽の外で洗って^{そと}から^{あら}洗って^いることを説明します。



ケンが、風呂から出てきて^{ひょうじょう}疲れた表情をする。

ナレーター：ケイコはケンが疲れている^{おも}と思^{しんしつ}い、^{あんない}寝室へ案内すると言います。ケンはこのような^みベッドは見たことがなかったので、ケイコにふとんについて説明してくれるようにたのみます。ケイコは、一番下^{いちばん}にしいてあるのがマットレス、その上^{おも}が^か重^{うえ}いしきぶとん、一番上^かのも^ろのが^か軽^ろいかけぶとんであたたかいことを説明します。



ケン：これはなんですか。

ケイコ：それはふとんです。

ナレーター：ケイコはケンに、あしたはまたたくさん日本について^{まな}学ばなければなら^ろないから、もうおやすみなさいと言います。

ケイコ：おやすみなさい。

ケン：けいこさん、おやすみなさい。